

女子バスケットボール部

金 美怜, 泉對 貴子

今回は千葉大学医学部135周年記念誌に女子バスケットボール部として一筆書かせていただけることを光栄に思います。そして、創部から今まで、女バスが部として存在してこられたのは周りの方々の支援があつてのことであり、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

私たちが入学した当初、千葉大学医学部には女子バスケットボールはありませんでした。

これだけのメジャースポーツにもかかわらず、男子部があつて女子部がないのはおかしいと思い創部を決意しました。と、書いてしまえばなんともあっさりとした話に聞こえますが、良い出会いがなければ、大学に入ったばかりの私たちに、部の設立なんて不可能だったと思います。

何の後ろ盾もなく部を作ることはできないので、初めは男バスのマネージャーとして入部させていただくことから始まりました。そのうちいなくなってしまう私達をかわいがってくださり、いろいろな面で女バスを支えてくださった男子部の方々には本当に感謝しています。

そして、どうにか部として成立した女子バスケット部ですが、初めはとても『部活』と呼べるレベルではなく、練習場所も人も思うように集まらず、苦しい時期が続きました。他大学の女子部は伝統もあり、人数も多く、部員が5名いるかどうかの部としては練習試合を申し込むこともままありませんでした。今思えば無茶な話ですが、男子部に練習試合をしてもらったのが初めての試合でした。

そんな状況でしたが、1学年上の先輩が入ってくださり、先輩らしいことを全然してあげられなかったにもかかわらず、後輩も入って来てくれました。手作り感あふれる部活でしたが、どこの部活よりも部員の仲が良く、笑いの耐えることが決してない場所でした。

毎年ある新歓の時期に、『女バスの先輩たちの雰囲気大好きで入部しました!!』と毎年言われるのが私の密かな自慢です。

卒業して半年。部活にはなかなか顔を出せず、後輩たちのことがふと心配になることもあります。今日も亥鼻の体育館で大騒ぎしながらバスケットをしていただければと思います。

(きん みよりん)

この度、千葉大学医学部135周年記念誌に寄稿させて頂き感謝申し上げます。

女子バスケットボール部は今年で創部6年目となりました。現在、部員は12人です。人数が少ないという苦労もありますが、OGの方々や男子バスケット部のプレーヤーに練習を手伝って頂くなどと、様々な方の協力の下、とても楽しく春夏秋の大会を目標に週3で活動させて頂いております。

私が入学したときにはもう女子バスケットボール部が存在しており、部を作るという苦労もせずに入りたい部活に入り、やりたい事がやれる恵まれた環境でした。

たった6年目の部活ではありますが、創部に関わった先輩方や部活としての活動の形を作ってきた先輩方と、直接関わることが出来ました。それ故、創部当初のOGから現役の部員までが大きな絆をもっています。そして、創部に当たっての苦労を聞き、その後もご支援をしてくださる先生方、OB、OGの方々とこの繋がり大きさをひしひしと感じています。

今後10年、100年と女子バスケット部が続く、さらに大きな絆を作っていけるよう精進していくつもりです。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

(せんつい たかこ)